

## 北九州市子ども読書活動推進条例の施行後の状況について

### 1 取組み状況

#### (1) 子ども読書活動推進会議の設置

- 「北九州市子ども読書活動推進条例」（平成27年7月3日条例第39号）に基づき、直ちに「北九州市子ども読書活動推進会議規則（平成27年8月1日教育委員会規則第34号）を制定し、附属機関「子ども読書活動推進会議」を設置。

《目的》子どもの読書活動の推進に関する基本的事項について、  
教育委員会の諮問に応じ、調査及び審議を行う。

《会議規則》平成27年8月1日施行

《委員の任期》2年間

（平成27年8月1日～平成29年7月31日）

《メンバー構成》15名

（学識経験者3名、学校等代表者5名、PTA1名、  
図書館・読書ボランティア3名、地域1名、図書  
館協議会公募1名、公募1名）

#### (2) 子ども読書活動推進会議（公開）の開催

第1回：平成27年8月17日

- ・会長及び副会長選出、現行計画の進捗状況報告、アンケート調査結果報告、現行計画における成果と課題の抽出

第2回：平成27年10月6日

- ・次期計画の方向性検討、子ども図書館機能の検討など

第3回：平成27年11月13日

- ・次期計画素案の検討、子ども図書館機能の検討など

《平成27年12月10日 常任委員会へ次期計画素案を報告》

第4回：平成28年1月22日

- ・市民意見の概要と市の考え方の整理、次期計画最終案の検討など

#### (3) 新・北九州市子ども読書プラン（第3次北九州市子ども読書活動推進計画）の策定

- 子ども読書活動推進会議（第1回～第4回）での検討
- パブリックコメント実施  
平成27年12月15日～平成28年1月15日

#### (4) 条例の周知・啓発

- 教育委員会広報紙「北九州市の教育 未来をひらく」掲載(平成27年10月)  
※市立幼・小・中・特支・高校に在籍する児童生徒の全家庭へ配布(85,000部)、  
私立幼・小・中、国・県立小・中・特支へは学校配布

#### 《出前講演等》

- 北九州市学校図書館協議会における研修会(平成27年12月)
- 区役所主催の読書講座(平成27年12月)
- 北九州市PTA協議会との教育懇談会(平成28年1月)

## 2 これからの取組み

### (1) 新・子ども読書プランの周知

- 市全体で子どもの読書活動を推進していくためには、保護者をはじめ、広く市民の理解と関心を高めることが重要である。プラン策定後は、ホームページ、リーフレット等による周知を図るほか、出前講演等で読書の意義や重要性、プランの取組み等を伝えていく。

### (2) 新・子ども読書プランに掲げる事業の実施

- これまでの計画では、5施策27事業に取り組み成果を上げてきたが、子どもの読書活動をより一層推進するために、新・子ども読書プラン(案)では、「子育て関連施設における子どもの読書活動の推進」、「主体的に読書に関わる子どもの育成、支援」を施策として加え、7施策36事業に取り組むこととしている。具体的には、子ども図書館の設置、学校司書の配置拡充、子どもたち自身が考え行動をおこすための「(仮称)北九州市子ども読書会議」の開催等に取り組んでいく。

### (3) 子ども図書館の整備についての検討

- 条例で規定された子ども図書館については、学校図書館支援センターとしての機能のほか、子ども読書活動の推進拠点としてふさわしい機能等について、子ども読書活動推進会議で検討を行っていく。

## 「新・北九州市子ども読書プラン」(素案) に対する パブリックコメントの実施結果

### 1 意見募集期間

平成 27 年 12 月 15 日 (火) ~ 平成 28 年 1 月 15 日 (金)

### 2 意見提出状況

- (1) 提出者 17 人  
 (2) 提出意見数 45 件  
 (3) 提出方法 ア ファックス 11 人  
 イ 電子メール 5 人  
 ウ 郵便等 1 人

### (4) 意見の内訳

区分		件数
計画全般に関わるもの		2
各論		
施策 1	家庭・地域における子どもの読書活動の推進	5
施策 2	学校における子どもの読書活動の推進	18
施策 3	市立図書館における子どもの読書活動の推進	7
施策 4	子育て関連施設における子どもの読書活動の推進	0
施策 5	市立図書館と学校、市民センターその他関係施設の連携強化	1
施策 6	啓発・広報による意識向上	0
施策 7	主体的に読書に関わる子どもの育成、支援	1
(仮称)「北九州市立子ども図書館」整備の基本的考え方に関するもの		3
その他		8
計		45

### (5) 計画への反映状況

区分	件数	割合 (%)
① 計画に掲載済み	9	20.0
② 計画の追加・修正あり	3	6.7
③ 計画の追加・修正なし	32	71.1
④ その他	1	2.2
計	45	100.0

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
計画全般に関わるもの(2件)				
1	今まで知らなかった様々な取り組みもされていて、良いと思いました。	ご意見ありがとうございます。	1	④
2	いろいろと行ってきた取り組みについて知らない人が多いので、どうやって広めていくのが大きな課題だと思います。今回、H32年度の目標値なども、どうしてそこを目標としたのかなども含め、周知徹底する方法を考えることが大切だと思います。	平成27年7月に公布施行された「北九州市子ども読書活動推進条例」も含め、「新・北九州市子ども読書プラン」の内容などの啓発に努めます。	2	③
施策1 家庭・地域における子どもの読書活動の推進(5件)				
3	大人が読書に理解を示さなければ、子どもも読書ができない、ということである。大人もついでに読書しよう、という共存共栄の考え方を仕組みの中に組み入れよう。	ご意見のとおり、読書好きの子どもを育てるためには、まず保護者に読書の楽しさを知ってもらい、子どもができるだけ早い段階から本とふれあうことの大切さを理解してもらふ必要があると考えています。新しいプランでも、「はじめての絵本事業」や「家読の推進」など8つの取り組みにより家庭や地域での子どもの読書活動の推進に努めてまいります。	2	①
4	市民センターにて本を予約して借りたり、逆に返却できる取り組みも必要である。従来のひまわり文庫のほか、一般の図書館の補助的存在として、そういう取り組みが必要である。場合によっては、司書や司書教諭の採用を積極的に行うべきである。	市民にとって身近な施設である市民センターで、市立図書館の本を貸出・返却や予約ができるようになる大変便利だと思います。しかし、そのためには多数の端末装置や配送システムが必要であり、司書の配置にも多額の人件費がかかることから、すぐに行うことは難しいため、今後の検討課題とさせていただきます。	3	③
5	ブックスタート事業のH32年度目標値100%とありますが、それを達成するのなら、出生届時に配布すれば100%近くなるのではないのでしょうか。また、配布時に図書館案内などを配布する他、父親でも一目でわかるような子どもへの読み聞かせポイントを記載したものが良いと思います。例えば…読んでいる途中や後に子どもに本の感想を聞かない など	母子健康手帳にあわせて絵本を贈ることで、保護者に妊婦時の早い時期から、子どもが絵本とふれあうことの大切さを理解してもらい、子どもの読書に関心を持ってもらうとともに、おなかの赤ちゃんに絵本を読んであげることによって、お母さんにゆったりとした静かなひとときをすごしてもらいたいと考えています。また、読み聞かせのポイントについては、絵本を贈る際に絵本の読み方や絵本のおはなし会へのお誘いなどを記載したものをお渡ししていますが、今後も絵本の大切さや読み聞かせの方法を学べる機会を作りたいと考えています。	2	③
6	ひまわり図書館として、より近い小学校区の市民センターにも本があるが、ただ棚に並べているだけで、借りられることは地域に周知できていないと思います。ただ置いておくだけでなく、手に取りやすく、読んでみたくなる仕掛けが必要だと思います。	児童書は子どもたちが見やすく、興味を持ってもらえるように工夫して配架することが大切であることから、ひまわり文庫の周知とあわせて、ご意見を参考にさせていただきます。	2	③
7	子どもが本が好きになるには、やはり乳児からの”親が絵本を読み聞かせる”という体験が必要です。自分で読む体験の前に、親の声で読んでもらい、絵を見ながら物語の世界に入っていく…という子どもの時にしか体験できないことが、子どもが本に触れあう第一歩です。成長してから本を与えるだけでは、本好きにはなりません。本の世界の楽しさを体験できるよう、ブックスタート事業で絵本を配布することも継続しつつ、絵本の読み聞かせ、一番近い親が寝る前に一冊でも読む大切さを、親に伝える必要があるのではと思います。読み聞かせの会に参加するだけでなく、親が自分の子どもに読むのも大切だということが伝わっているか疑問を感じます。	保護者に妊娠時の早い時期から、子どもが絵本にふれたり、見る・聞くことの大切さと、子どもの読書に関心を持ってもらうきっかけになるような絵本を贈るとともに、保健師の家庭訪問時などを通じて、絵本の大切さをお知らせしていますが、今後も家庭における子どもに絵本を読む大切さを、いろいろな機会を通して、保護者の方に伝えていきたいと考えています。	2	③

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
施策2 学校における子どもの読書活動の推進(18件)				
8	学校司書の配置において、市内の小・中学校数に対して配置されている現状の人数は、H32年度目標63人に対して、31人とあり、半分近くにしか達していない。増員の確保を希望します。	平成32年度までに、62中学校区に62名及び特別支援学校に1名の配置を目標としています。	2	①
9	クラス担任を受け持つ学校教員が、強制的に本を貸し出すだけでは、テレビやゲームなどへと走るメディア志向の子どもたちに働きかけることに限界があると察します。	学校図書館職員の活用や、読書リーダーの育成、朝の一斉読書など、子どもが主体的に読書に関わるような取組みを、学校全体で行うために、学校が図書館教育指導計画を立てて取り組むようにしています。	2	①
10	朝の10分間読書を、週に1回は小・中共に市の方から強制的に行うよう義務づけ司書やボランティアによる読みきかせの取り入れの必要性も、市の方から学校側に働きかけることで、「読書に対して自主性のない生徒」に対し、手を取り導く指導として大きな一助につながるかと信じます。	また、学校図書館職員の配置により、教員や児童生徒に対するレファレンス(図書等に関する相談)を充実させるとともに、ブックヘルパーと一緒に学校の特色を生かした学校図書館を整備し、児童生徒が自然と本に手を伸ばす環境づくりを目指しています。	2	①
11	司書教諭がいる学校に司書を派遣する必要はない。	司書教諭は、教員として学級担任や教科指導を行っているため、学校司書として専ら学校図書館業務に従事することはできません。そのため、児童生徒の読書活動、学校図書館の環境整備等が一層推進されるように、学校司書としての業務を担う学校図書館職員を派遣しているところです。	2	③

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
12	<p>小学校と違い図書の時間がない中で中学校の図書室利用頻度の高い生徒と接してみてわかったことは、やはり家庭の読書環境に恵まれていることです。特に父親が本を読み、良質な本が身近に置かれていること、図書館に行く習慣があることです。やはり、本を手渡す大人が一番身近な家庭にいることは大変重要です。</p> <p>しかし現実には共働きの家庭も増えゆっくり本を読み聞かせる時間も余りなく、児童・生徒も中学年以降習い事で忙しく、テレビやゲーム・携帯と、本以外に費やす時間が増えています。だからこそ、学校の図書の時間の大切さ、重要性をとて感じています。なぜなら、小学生時代にどれだけ本に親しんだかで中学校の図書室利用頻度の多少に関わってくるからです。僭越ではありますが、図書の時間を充実したものにするには、やはり先生方のご指導にかかっていると思います。</p> <p>まず、年度初めに図書室の利用の仕方や簡単な本の分類とその場所を説明すること。次に貸出しに関しては、2冊の本のうち1冊は読み物の本を選ぶように指導したり、教科に関連した本をすすめたりすること(5年生だと棕鳩十の本を1冊選ぶ等)。そして、15分間、席を離れずに静かに本を読むことです。(とても貴重な時間です!)実践している学級は、本当に静かに読書に集中しています。私自身学校図書館職員として、児童生徒一人一人の読書傾向をふまえ丁寧に本を手渡していきたいのですが、3校掛け持ち(プラスフォローアップ2校)の上、毎年学校が変わることから、物理的にも精神的にも難しさを感じています。</p>	<p>各学校で、蔵書の充実、年度当初のガイダンス、本を読みたくなるレファレンス等の工夫を行っていますが、ご意見を参考にさせていただき、ブックトークやビブリオバトルなどの効果的な事例を講習会等で紹介していきます。</p> <p>また今後、学校図書館職員は増員していく予定です。ブックヘルパーや地域等のボランティアの方にもご協力いただきながら、学校や家庭における読書活動が一層推進されるように努めます。</p>	2	①
13	<p>ただ、その中で、可能性を感じたのはブックヘルパーの方々の存在です。最初の3校は2年間の勤務でしたので、ブックヘルパーの方々と定期的に集まりを持って、基本的な作業の説明に加え、日々の関わりの中で児童・生徒にいろいろな形で良質な本を手渡すことの大切さを伝え、意義を持って活動してもらい、その中にやりがいと楽しさを見出してもらいたいと働きかけました。現在、鞆ヶ谷小学校のブックヘルパーの方々は定期的な集まりを持ち、そこでお互いに本を紹介しあい、それを本のPOP作成や図書だよりの作成そしてブックトークを行い、子供たちに還元するまでに活動の幅を広げています。</p> <p>絵本から児童書への移行は、絵本の読み聞かせだけではやはり限界があります。本を読んでもらうことと、自分で本を選び取って読むことは別のことです。そのために、良質な本の紹介は大事です。外部のボランティアの方々のブックトークや、子供同士で紹介しあうビブリオバトルなどいろいろな取り組みもあるとは思いますが、やはり、学校の図書館に良質な本があり、時々先生が「この本を読んでみたらおもしろいよ」と伝えてくださればなによりだと思います。信頼している大人の言葉は子どもにとってとても大きいのです。</p>		2	①
14	<p>ノーテレビ、ノーゲームデーは月1日だけでなく例えば3のつく日など…月3回等増やしても良いと思います。これについても、親の意識から変えることも大切だと思うので、スマートフォンについても含め、母子手帳交付時や出生届時、乳幼児健診時等にPRすると良いと思います。</p>	<p>ご意見のとおり、読書好きの子どもを育てるためには、まず保護者に読書の楽しさを知ってもらい、子どもができるだけ早い段階から本とふれあうことの大切さを理解してもらう必要があると考えています。</p> <p>新しいプランでも、「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」を重点取組みとし、家庭や地域の大人が連携し、子どもの読書活動を推進することとしています。</p> <p>母子健康手帳交付時等のPRについては、関係機関と協議しながら進めていきます。</p>	3	③

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
15	学校図書館でボランティアをしていて中学生を見ていると、本を読まない子どもは自分を守るのに必死で、とても弱いと感じます。そのような子が本を読むためには、大人の優しい声かけや自分を認めてくれる大人の存在が必要です。大人の声を呼び水に「読み聞かせ」で開眼させてあげたい。「司書が、毎月本を紹介し、展示を工夫し、子どもたちに声を掛ける様は、子どもたちにとって大きな『力』となりました。」人と本の充実を希望します。	今後、学校図書館職員を増員していく予定です。また、ブックヘルパーや地域等のボランティアの方にもご協力いただきながら、大人の優しい声掛けができる学校図書館、本を読みたくなるような紹介や掲示物が充実している学校図書館など、児童生徒が自然と本に手を伸ばす環境づくりを目指しています。	2	①
16	小学校の図書館も、ブックヘルパーとして関わっているのですが、掃除はしていますが汚い…イメージが暗い。図書館の場所が校舎の隅にあるなど、子ども目線で見ると、読書スペースである図書館自体が、学校の端へ追いやられている感じがします。司書の方も月に数回入られていますが、ハード面だけでなく、子どもと直接ふれあい、子どもにおすすめの絵本を話してくださると嬉しいです。	学校における読書活動推進の具体的な取組の一つとして、「心の居場所」となる学校図書館づくりを進めています。学校図書館職員やブックヘルパーとともに、季節の飾りつけ、本の紹介、ゆったりと読書できるスペースなど、環境整備に努めます。また、読書活動が一層推進されるように、学校行事や学習、地域に応じた図書資料を充実させ、発達段階や各学校の特色に応じた資料整備にも努めます。	2	①
17	本が心を豊かにするものだというのを、親だけでなく市や学校の図書館でも体感できるよう、子どもが何を讀もうか悩んでいるときにいつでも相談できたり、感想などを話せる相手がいればいいと思います。いつも足を運ばば誰かいて、本について教えてくれたり、話を聞いてもらえる相手がいるって、心強いのではと思います。		2	①
18	10年以上ボランティアで読書活動している司書有資格者には、「学校司書有償ボランティア」としての任務を推奨することを提案します。 私は、司書、司書教諭有資格者で専門学校司書の仕事と同時に、読書ボランティア20年間子どもたちの読書の喜びに繋げる活動を続けてきました。その内、小学校図書室サポートは11年間で、中学校区図書館員配置、ブックヘルパー制度以前から活動を続けてきています。 その間、残念ながら、学校図書館員の派遣制度になったものの、パソコン技術がなかったり、図書室を飾ることにだけ力を入れたり、パソコン技術は持っていても児童書の知識がなかったり、児童・生徒のレファレンスをブックヘルパー任せにして学校図書任務を放棄している学校図書館員ばかり見てきました。また、当初は中学校区に図書館員一人配置が、いつのまにか6校も廻っている図書館員を知りました。週1回、月1回位で何ができますか？ブックヘルパーに充分指導することなどできる筈がありません。 長年図書ボランティアをしてきた者に学校司書代行(有資格者であることが条件)を任せられた方が良いでしょう。 あるいは、図書館員配置は、中学校のみで、小学校は「学校司書有償ボランティア」と、「本の知識の豊富な読書ボランティア」ブックヘルパーのみにすることも提案します。	学校図書館職員の研修会を年3回実施しています。研修会では、学校図書館を見学してお互いの工夫を知らせたり、それぞれの職員がもっている技術を紹介したりして、スキルアップに努めています。 学校図書館職員の配置は、中学校区1名で、中学校1校と小学校2～3校を担当しています。配置外の学校については、学校図書館づくりの支援として、年数回フォローアップをしているところです。 現在、多くのブックヘルパーの方にご協力をいただき、学校図書館職員と一緒に子どもたちの読書活動推進を図っているところです。今後は、学校図書館職員を拡充して学校図書館職員配置校を増やし、学校図書館職員・ブックヘルパーを対象とした研修をさらに充実させる予定です。	3	③
19	学校読書ボランティアのスキルアップの機会をもつこと(現状は、図書館ボランティアのみ)	ブックヘルパー(図書館ボランティア)登録をしていた方には、スキルアップの研修を行っているところです。校内でも、研修内容を伝達していただきながら、スキルアップに努めます。	3	③
20	お祭りの読書企画は廃止すべき。代替的に子ども読書の日を4月23日にとどまらず毎月、各学校で充実した読書活動の取り組みを実行させる。	年度当初、全小中学校で「学校図書館教育の指導計画」を作成し、年間を通して計画的に学校図書館教育を推進しているところです。「学校図書館の機能充実」「学校図書館の利用促進」「読書活動の推進」の視点から、学校の特色に合わせた具体的な取組を行っています。	3	③

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
21	朝読の時間の10分間読み聞かせではなく、授業時間に取り組みおはなし会にすべき。決して、授業時間を削減させるのではなく、お話を聴く集中力を養い、学力レベルをアップさせることに繋がる。	読み聞かせについては、学校の特色に合わせて、それぞれの学校で取り組んでいるところ。授業時間中の取組について、行事予定や学習内容によっては、教師やボランティアの方による読み聞かせを行う場合もあります。	3	③
22	司書の資格を持っている人が活用されていない。その人達を雇用できるよう働きかけて欲しいと思います。	学校図書館職員(図書司書有資格者)の任用については、これまで配置校を拡充し、現在31中学校区に31人を配置しています。 また、市立図書館全17館で、職員174人に対して、司書を136人配置しており、今後も司書資格をもっている人の活用を進めていきます。	2	③
23	各小学校で朝の読書が保護者や地域ボランティアの手で推進されていますが、小学校の先生が子どもに本を読んであげる時間があることが、子どもを本好きにする一番いい方法だと思います。本を選ぶことで先生の思いが子どもに伝わります。	各学校、学級の特色や実態に応じて、読み聞かせボランティアの方だけでなく、教師が読み聞かせを行うこともあります。	2	③
24	学校であれば、学校図書館担当者や司書教諭、学校図書館職員、ブックヘルパーなどが困っていることなどを伝えられる場があれば改善できる点もあると思います。 どうしたらよくなるのか、というのは皆、日々考えていることだと思いますので、そういう意見を聞くことにより、地域性などが見え、どうすることが必要なのか幾分ははっきりするのではないかと思います。	読書活動を推進するにあたって出てきた課題については、各学校長や教育委員会が一つ一つ受け止め、改善に向けて具体的に取り組んでいるところです。	3	③
25	学習支援教諭が読書推進教育をする。 図書館の中で本に包まれた環境の中で、司書教諭が読書教材などを授業する。 学習単元に応じた本の展示コーナーを設置する。 図書館の中での授業において子ども達は、関連図書にも目が行き、図書館利用が増え、読書好きな子どもが育っていくと考えられる。	学校図書館主任や学校図書館職員、ブックヘルパーなど、学校図書館に関わる人が、学校の特色に合わせた学校図書館づくりに努めています。特に、学校行事や各学年の学習内容に合わせた図書の紹介や展示を行っています。	3	③
施策3 市立図書館における子どもの読書活動の推進(7件)				
26	一番近くの企救図書館は、蔵書も少なく、特に児童書コーナーが子ども目線で配置しておらず、借りたい本が決まっていればいいのだが、子どもが自分でどれにしようかと選ぶには、ただ並べているだけなので、季節ごとやテーマごとにもっと手取りやすい場所に置き、案内文もつけたりして、大人ではなく子どもが自分で選択できる配置にしてほしいです。	児童書コーナーにおいて、見やすく、興味を持ってもらえるような工夫した配架にすることは、子どもの興味を呼びさますものと考えています。 ご意見を参考にさせていただきたいと思います。	2	③
27	読書ボランティア指導者を養成すべきです。 読書ボランティア講座(初級、上級、ブックトーク)が中央図書館で実施されるようになり15年たちます。 読書好きな子ども日本一を目指すなら読書ボランティア指導者も北九州市が育成すべきだと思います。	ご指摘のとおり、読書ボランティアの指導者となる方を養成することはとても重要と考えております。そのため、読み聞かせの経験がある方を対象に、上級者向けの養成講座を実施しており、今後も研修の方法等を検討のうえ、継続したいと考えております。	2	③

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
28	<p>子どもの想像力を豊かにするためのおはなし会のレベルアップ！</p> <p>私は、東京子ども図書館と県立図書館で指導者養成講座を受講して多くを学びました。また、東京、神奈川、名古屋、滋賀と図書館を訪問し、おはなし会の様子も見学してきました。その上で、北九州が「日本一」になることは現状では困難です。神奈川や名古屋は、図書館員がストーリーテリングを含んだフォーマルなブックトークを紹介、おはなし会では、ストーリーテリングのみのおはなし会もしています。読書ボランティア指導も徹底していました。人形劇やパネルシアター等ビジュアル的な受け狙いのパフォーマンスなおはなし会は極力しない。子どもの想像力を豊かにするために欠かせないことと他県の図書館員さんからお話を伺いました。その通りだと思います。北九州は、講座で学んだことを活かせていない。「ストーリーテリング講座」は、何のためにしているのでしょうか？</p> <p>おはなし会はするだけでなく、読んだ本の紹介、関連本の紹介をしてその内容をおはなし会に来られた参加者はもちろんのこと、来られなかった人のためにも用意して、プログラムを自由に持ち帰ってもらうことは読書意欲に繋がるのです。</p>	<p>貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。本市でも平成26年2月から、読み聞かせボランティアバンクを設立し、登録団体の資質向上に努めています。</p>	2	③
29	ストーリーテリングおはなし会を図書館で実現すること	<p>図書館では、子どもの読書活動推進のため、年齢に応じた様々な事業を行っておりますので、今後の参考とさせていただきます。</p>	2	③
30	ブックトークにもストーリーテリングを取り入れたフォーマルなブックトークをすること		2	③
31	<p>「読書好きな子ども日本一」にする為には、天籟寺地区にも図書館を中心とした複合施設を戸畑体育館の跡地に建設して欲しい。若松図書館のように民間との複合ビルでも良い。</p> <p>複合施設の例 こどもと母の図書館、学童保育、児童館、保育園、市民センター、スーパーマーケット、マンション等</p> <p>読書好きなこどもになる為には、図書館が身近な所にあり気軽に利用できることが必要条件。遠いと行かないし、行けない。2～3年生の学校からの図書館訪問や探検も歩いて行けないと実現できない。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	3	③
32	<p>ブックトークマイスターの育成(司書教諭)</p> <p>読書の時間を使ってブックトークを行う。それが上手に指導できる人材の育成を市が行う。</p> <p>詳しくは、ブックトーク東京都立図書館のサイト</p>	<p>現在、学校図書館教育主任(司書教諭を含む)を対象に講習会を実施しています。講習会では、ブックトークなど、様々な読書活動についても実演しています。今後も、子ども図書館を整備し、さらに人材育成の充実につとめていきます。</p>	3	③
<p>施策4 子育て関連施設における子どもの読書活動の推進(0件)</p>				
<p>施策5 市立図書館と学校、市民センターその他関係施設の連携強化(1件)</p>				
33	<p>「子ども司書」に関しては、一般の司書資格が取れる大学のコースに準じて育成することを求める。</p>	<p>現在、小学5・6年生と中学1・2年生を対象に養成講座を行っています。その内容は、対象の子どもたちが活用できるカリキュラムとしており、実際に本の装備や窓口実習などを図書館で行っています。今後も、習得した知識等を学校で活かせるような講座となるように工夫して参りたいと思います。</p>	2	③

## 【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

## 【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
施策6 啓発・広報による意識向上(0件)				
施策7 主体的に読書に関わる子どもの育成、支援(1件)				
34	ピプリオバトルは、必要なし。遊び感覚では本来の読書推進に繋がらない。フォーマルなブックトークを推奨します。	新しいプランでは、子どもが自ら読書に親しみ、読書習慣を身につけていけるよう子どもの興味・関心を尊重しながら、自主的、主体的な読書活動を推進することを活動方針の一つとしています。 子どもが読書に楽しく親しむきっかけとなるような取組みを推進していきます。	3	③
(仮称)「北九州市立子ども図書館」整備の基本的考え方に関するもの(3件)				
35	「北九州市立子ども図書館」について、大変良い計画で高く評価します。 ・北九州市内と近隣地域を題材にした図書コーナーがあれば、「郷土愛」につながると思います。 ・勝山公園内に平和記念碑があり、毎年8月9日に原爆犠牲者慰霊平和記念式典が続けられています。記憶が風化しないように広島・長崎・小倉が今後とも恒久平和の実現をめざすように、反核(反戦)・平和の図書コーナーを希望します。(到津の森公園は動物愛は平和に通ずで運営)	「子ども図書館」は子どもの読書活動を総合的に推進するための拠点として、今後、「北九州市子ども読書活動推進会議」や市民の皆様の意見を聞きながら、具体的な整備内容を検討していきます。 子どもが本市の誇るべき歴史、文化・芸術、スポーツなどに触れ、郷土に愛着を持てるよう、子ども図書館で豊富に資料収集、提供することは重要と考えています。 子ども図書館が担う機能に、「シビックプライドの醸成」を加えます。 また、子ども向け専門図書館として、平和に関する図書も含め良質な資料を豊富に収集・提供していきます。	2	②
36	文学館は中央図書館と建物が一体になっていますので、「子ども図書館」と連動効果があるように、文学館ロビーや交流ステージを活用して子どもの本関係のイベントを開催する。文学館「友の会」組織が協力体制になるようにすればいいと思います。	文学館を活用した本関係のイベントについては、今後中央図書館と協議し、検討します。友の会で協力が得られる具体的な事業であれば、今後友の会にも投げかけていきます。	2	②
37	素案を拝見しましたところ、子どもの読書活動をもっと盛んにするために、新しく「子ども図書館」がつくられる予定になっているようで、大変嬉しく思っています。どんな「子ども図書館」ができるのか楽しみです。これまでに、北九州市では、「文学館」や「松本清張記念館」を整備してきましたのでこれらの施設との連携が重要になるのは言うまでもないことですが、特に、文化、芸術を通して子どもたちがこのまちに誇りを持つようになるためには、この「子ども図書館」(子ども図書館が開館するまでは中央図書館)と多くの文学者の功績を伝える役割を持つ「文学館」との協力関係が最も大切だと思います。「シビックプライド」の醸成のための拠点として、「子ども図書館」(子ども図書館が開館するまでは中央図書館)と「文学館」を位置づけ、施策を検討したらどうかと考えますが、いかがでしょうか。	子どもたちが文化や芸術を通して、北九州市に誇りを持つようになるためには、ご指摘のとおり、図書館と文学館が連携することは大切です。 文学館と中央図書館で協議をしながら施策を検討していきます。	3	②
その他(8件)				
38	医療と連携しなければ、読書なんて進まない。耳鳴りや難聴、静かな環境保持対策が必然である。良い病院を育てる、良い医師を育てる、良い環境を育てることにまず心を砕くべきである。	ご意見として承ります。	4	③
39	北九州市内の大学、特に、北九州市立大学での司書教諭資格や司書資格の取得を強化するべきである。その際、通学制でなくても学べる体制を持つことも必要である。	北九州市内には、司書教諭資格や司書資格が取得できる私立大学がありますが、現在のところ北九州市立大学では取得できません。ご意見は、設置者として市から独立行政法人北九州市立大学に伝えるとともに、今後の参考にさせていただきます。	3	③

## 【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

## 【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
40	戸畑分館廃止予定との事ですが、子どもプランも大事だが大人(老人)などの利用便の良さで毎日のように通っている私にとりましては、この分館が無くなる事は非常に悲しい事であります。近所で交通の便も良く、館の職員の方々とも気軽にリクエストや希望など伝える事が出来、本当に重宝しています。My図書館とまで思っていますのに…。是非廃止になること無く、このまま存続の方法で検討しなおしていただきたく思います。地域の重要な場所である事を考えてみてください。	本市では、今年度中に今後の公共施設のあり方や具体的な取組みの進め方を「公共施設マネジメント実行計画」としてとりまとめることとしています。その中で図書館については、中央図書館、地区図書館を維持、充実し、分館については、区役所出張所のうち大規模出張所周辺にある分館は存続させ、それ以外の分館については、地区図書館の整備状況などを見ながら縮減することとしています。	4	③
41	戸畑図書館分館閉鎖について、私の周りでは「残念」「反対」意見がたくさん聞かれます。「ひまわり文庫」の充実しても、「蔵書が少ない」、「司書がいない」、「子どもが歩いて通える図書館が無くなるのはいかがなものか」等です。	戸畑分館の取扱いについては、今後、市内図書館の全体配置のバランスや図書館サービスのあり方、公共施設マネジメントの考え方(最適な施設規模、既存施設の有効活用、維持管理コストの縮減等)などから総合的に検討していくことになる予定です。 なお、市立中央図書館、地区館、学校図書館においては、図書資料の充実や、利用しやすい図書館づくりに努めてまいります。	4	③
42	基本目標の「豊かな心と生きる力を育む読書環境の充実と子どもが楽しく自主的に本を手にとる読書習慣の形成」に対して、戸畑図書館分館の閉館は、全く相反する現実ではないかと驚きます。戸畑図書館へ“子ども”は校区外でしたらひとりでは行けません。地域に、読書は楽しいと子どもに思わせる環境を充実させる目標から遠ざかるのではないかと危惧します。 身近に読書環境があつてこそ子どもは自主的に本を手にとることが増えます。市民センターのひまわり文庫の充実はいいことですが、そこに子どもの読書欲を高める手助けをするおとなが必ずいります。そこは大丈夫なのでしょうが。	戸畑区においては、平成26年3月に戸畑図書館をリニューアルオープンし、図書館サービスの充実に努めているところです。	4	③
43	今回の施設廃止、私は反対です!!いつか必ず迎える施設の老朽化による建て替えや移転ならまだしも、採算性だけで廃止するというのは間違っていると思います。たしかに少子化と言われるなかでの運営は大変な部分も多いと思いますが、同時に高齢化や貧困家庭が増えていることも忘れてはいけないのではないでしょうか?無料や安値で利用できる地域に寄り添った場所やサービスこそ、これから見直され大切にしていきたいのではないでしょうか。 図書館が少なくなるのであれば、市民センター内にスペースを設けるとか、市民プールが無くなるのであれば、子ども達は自分が通う幼稚園や学校でプールに入れるとか、工夫してからも遅くないです。遊べない公園が増え、携帯やゲームなどの普及によるトラブルや犯罪が増えています。一方的な提供では、利用者にとっては退屈でしかなく、安全性や利便性がなければ結局は受け入れられなくなるのです。子ども達が協調性や社会性を学ぶ大切な場を地域で見守り育てる場所を残してください。	本市では、今年度中に今後の公共施設のあり方や具体的な取組みの進め方を「公共施設マネジメント実行計画」としてとりまとめることとしています。その中で図書館については、中央図書館、地区図書館を維持、充実し、分館については、区役所出張所のうち大規模出張所周辺にある分館は存続させ、それ以外の分館については、地区図書館の整備状況などを見ながら縮減することとしています。 具体的な分館廃止の検討については、今後、市内図書館の全体配置のバランスや図書館サービスのあり方、公共施設マネジメントの考え方(最適な施設規模、既存施設の有効活用、維持管理コストの縮減等)などから総合的に検討していくことになる予定です。 なお、市立中央図書館、地区館、学校図書館においては、図書資料の充実や、利用しやすい図書館づくりに努め、子どもの読書環境の充実に努めてまいります。	4	③
44	親子ふれあいルームスタッフは、すべて無償ボランティアにすべきです。 親子ふれあいルームができたことで、小学校や市民センターでの読書ボランティアが激減しています。市民センターで活動する無償ボランティアが有意義に生きがいを持って続けることができるように支えてください。フリースペースは市民センターのボランティアであることが望ましい。 名古屋のように、ふれあいルームは廃止して、トワイライトスクールの試みを提案します。	本市では、乳幼児期を持つ親の子育てへの不安感を軽減するため、市レベルの子育て支援拠点として、「子どもの館」と「子育てふれあい交流プラザ」の運営を行っています。 また、区レベルの子育て支援拠点として、親子が気軽に集い、情報交換や育児相談等ができる場として、各区に1箇所ずつ、区役所等の公共施設に「親子ふれあいルーム」を設置し、公募によって選ばれた運営事業者がその運営にあたっています。 この市及び区レベルの子育て支援拠点と、地域レベルの拠点である市民センター等が連携・補完し合うことで、引き続き、地域の子育て力の向上に取り組んでまいりたいと考えています。	4	③
45	スマホの普及に伴い、ますます読書離れが進むと考えられます。そのための対策を考えなければ、改善できないところが多いと思います。	携帯・スマートフォンの使い方や家庭での過ごし方については、保護者にも協力をお願いしているところです。学校では、読書の楽しさを味わえるような取組を進めているところであり、読書活動推進に努めます。	3	③



平成 28 年 2 月 3 日  
 常任委員会資料  
 教育委員会

「新・北九州市子ども読書プラン」新旧対照表  
 (パブリックコメントによる修正分)

該当箇所	新 (最終案)	旧 (素案)
P 2 6 No 3 1「主な取組み」 の表現を変更 P 1 4 施策 5「主な取組み」 の表現を変更	文学館など関係施設・団 体が行う各事業への相 互協力	関係施設・団体が行う各事 業への相互協力
P 3 0 子ども図書館が担う 機能に「Ⅱ シビッ クプライドを醸成す る図書館」を新たに 加える	Ⅱ シビックプライドを 醸成する図書館 ○子どもたちが、本市の成 り立ちや地域特性、誇る べき歴史や産業、文化・ 芸術、スポーツなどに触 れることができるよう な資料の収集、提供 ○市立文学館とも連携し、 本市ゆかりの作家の作 品や本市を描いた文学 作品を子どもたちにわ かりやすく伝える場の 提供	記載なし
P 3 0 項番のずれを修正	Ⅲ 市立図書館による児 童サービスの統括機能 Ⅳ 学校図書館支援セン ター機能 Ⅴ 地域や家庭等での子 ども読書活動の支援 Ⅵ 関係機関との連携の 推進	Ⅱ 市立図書館による児 童サービスの統括機能 Ⅲ 学校図書館支援セン ター機能 Ⅳ 地域や家庭等での子 ども読書活動の支援 Ⅴ 関係機関との連携の 推進
P 2 9 「Ⅰ 子ども向け専 門図書館」の表現を 変更	○良質な資料を豊富に収 集・提供 (世界の絵本・ 児童書、歴史・社会・科 学・文学資料等)	○良質な資料を豊富に収 集・提供 (世界の絵本・ 児童書、 <u>地域の</u> 歴史・社 会・科学・文学資料等)